

日本周産期・新生児医学会 第 44 回 周産期学シンポジウム開催概要

第 44 回周産期学シンポジウム (<https://symposium44.umin.jp/index.html>) のテーマは、『未来へつなげる周産期学 -子宮内環境と児の Well-being を考える-』です。同シンポジウムが独立して開催されるのは、今回が最後になります。2027 年以降は、毎年 7 月に開催される日本周産期・新生児医学会学術集会の中で開催される予定です。したがって、独立した形で開催される最後の学術集会に相応しいプログラムを、周産期学シンポジウム運営委員の皆様と一緒に検討しています。

今回は、未来の周産期学シンポジウムへつなげる特別な位置付けの学術集会になることから、これまでの軌跡を振り返り、未来につなげるための講演や展示会などの特別企画の準備も鋭意進めています。展示会では、過去の周産期学シンポジウムのテーマや概要、その時々の写真や抄録集などをご覧いただけるようにする予定です。過去の抄録集は実際に手にとっていただけるようにする予定です。オンデイマンド配信も予定していますが、展示会は現地会場でのみご覧頂くことが可能ですので、是非現地にお越し下さい！

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2025 年 12 月

日本周産期・新生児医学会 第 44 回 周産期学シンポジウム
会長 内山 温
(東海大学医学部総合診療学系 小児科学 教授)

テーマ：未来へつなげる周産期学 -子宮内環境と児のWell-beingを考える-

会長：内山 温（東海大学医学部総合診療学系 小児科学）

会期：2026年1月16日（金），17日（土）

会場：パシフィコ横浜 アネックスホール

URL：<https://symposium44.umin.jp/>

参加登録・単位のご案内 URL：<https://symposium44.umin.jp/registration.html>

（2025 年 12 月 18 日現在）

■1月16日（金）

14:30～18:30 プレコングレス

【オープニングセミナー】14:30～15:30

企業共催セミナー1：株式会社フィリップス・ジャパン

「未来へつなげる周産期学 -胎児・新生児 MRI の活用-」

座長：柴崎 淳（神奈川県立こども医療センター 新生児科）

演者：丹羽 徹（東海大学医学部 画像診断科）

【ハンズオンセミナー】14:30～15:30 ※事前登録、定員制

企業共催セミナー2：株式会社大塚製薬工場

「未来へつなげる周産期学 -経鼻胃管ご插入リスク低減への挑戦-」

講師：岡崎 薫（東京都立小児総合医療センター 新生児科）

川村 大揮（東海大学医学部総合診療学系 小児科学）

【未来へつなげる周産期学】15:40～18:30

15:40～16:40 産婦人科領域講習1単位、小児科領域講習1単位※申請中、新生児蘇生法アップデート

- 「High Performance NCPR を実践するために NCPR アルゴリズム 2025 を理解する」

座長：石本 人士（東海大学医学部専門診療学系 産婦人科学）

演者：細野 茂春（公益社団法人地域医療振興協会練馬光が丘病院 小児科/自治医科大学）

16:50～17:20

- 特別企画講演：「周産期学シンポジウムの歴史」

座長：金川 武司（国立循環器病研究センター 産婦人科、現 周産期学シンポジウム運営委員会委員長）

演者：大槻 克文（昭和医科大学江東豊洲病院産婦人科）

17:30～18:30

- 基調講演：「AI 時代における乳幼児期の安全基地の意味」

座長：内山 温（東海大学医学部総合診療学系 小児科学）

演者：茂木 健一郎（東京大学大学院総合文化研究所）

■1月17日(土)

08:00～17:00 周産期学シンポジウム

【モーニングセミナー】 08:00～09:00

企業共催セミナー3：アストラゼネカ株式会社/サノフィ株式会社

「未来へつなげる周産期学 -これから的小児に対する RSV 感染症予防策 2026-」

座長：長谷川久弥（東京女子医科大学附属足立医療センター 新生児科）

演者：勝田 友博（聖マリアンナ医科大学 小児科学教室）

【周産期学シンポジウム運営委員会委員長挨拶】 09:10～09:15

【午前の部】 09:15～12:05 産婦人科領域講習 2 単位、小児科領域講習 1 単位※申請中

サブテーマ：未来へつなげる周産期学 -子宮内環境と児の予後-

座長：市塚 清健（昭和医科大学横浜市北部病院 産婦人科）

平田 克弥（大阪母子医療センター 新生児科）

- 胎児脳障害予測指標としての分娩時 fetal heart rate variability の利用可能性

演者：真川 祥一（三重大学医学部附属病院 産婦人科/臨床研究開発センター）

- FGR 児における出生時血圧の予測因子の探索

演者：栗原 康（大阪公立大学大学院医学研究科 女性生涯医学）

- 児の予後を考えた際に妊娠糖尿病における持続血糖測定は新たな管理法となりうるか

演者：春日 義史（慶應義塾大学医学部 産婦人科学教室）

- 尿中タイチンは新生児の子宮内環境及び周産期ストレスを評価可能か

演者：不破 一将（日本大学 小児科学系小児科学分野）

- インプリンティング疾患発症に対して生殖補助医療が与える影響の解明

演者：原 香織（慶應義塾大学医学部 小児科/国立成育医療研究センター研究所分子内分泌研究部）

【ランチョンセミナー】 12:15~13:15

企業共催セミナー4 :

「未来へつなげる周産期学 - RSV 感染症の予防戦略～maternal vaccine 接種の実際～ - 」

座長：光田 信明（大阪母子医療センター 病院長）

演者：① 永松 健（国際医療福祉大学医学部 産婦人科学）

② 布施 明美（医療法人産育会堀病院 副院長兼看護部長、神奈川県助産師会副会長）

【午後の部】 14:10~17:00 産婦人科領域講習：2 単位、小児科領域講習 1 単位※申請中

サブテーマ：未来へつなげる周産期学 -子宮内環境と母児の予後-

座長：小松 玲奈（昭和大学江東豊洲病院 産婦人科）

長野 伸彦（日本大学医学部附属板橋病院 小児科・新生児科）

1. 出生児を意識した妊娠中の微生物叢の把握と課題（関連演題）

演者：谷垣 伸治（杏林大学 産科婦人科）

2. 胎盤機能不全による胎児腸管・免疫系プログラミングの分子学的機序に基づく腸管機能障害の予防戦略

演者：市瀬 茉里（東京大学 女性診療科・産科）

3. 子宮形態異常と周産期リスク：臍帯付着部位置異常の関与

演者：吉原 達哉（山梨大学医学部附属病院 産婦人科）

4. 妊娠 34 週未満の胎児発育不全の周産期管理における sFlt-1/P1GF 比の有用性に関する検討

演者：篠原 諭史（山梨県立中央病院 総合周産期母子医療センター 産科）

5. 臍帶動脈血流異常を伴う selective FGR の予後不良関連因子を探る～胎児治療適応拡大を見据えて～

演者：山本 亮（大阪母子医療センター 産科）

■1月16日(金) 13:00~18:30, 1月17日(土) 9:00~16:30

特別企画 展示会：「周産期学シンポジウムの軌跡と未来」

■1月16日(金) 13:00~18:30, 1月17日(土) 9:00~16:30

企業展示会

■シンポジウム参加費：

会員および医療従事者 : 12,000 円

看護師、保健師および助産師 : 5,000 円

初期研修医、大学生、専門学校生 : 無料

■事務局(連絡先)：株式会社 MA コンベンションコンサルティング

TEL : 03-5275-1191

E-mail : symposium44@macc.jp